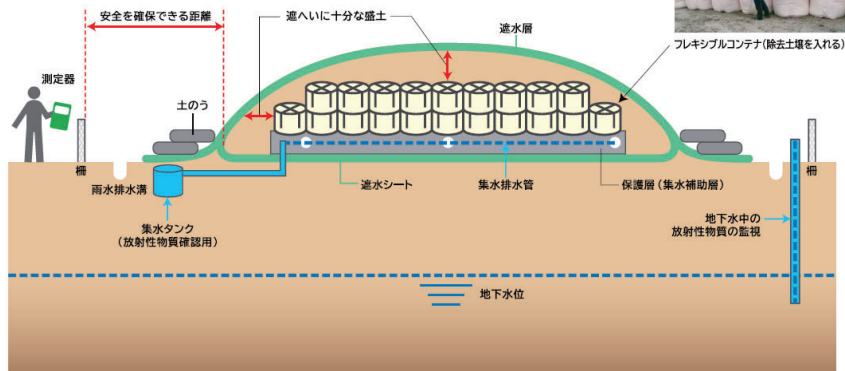


除染で取り除いた土などの保管 仮置場の例（地上に除去土壌を保管する場合）

除染に伴って生じた除去土壌は、一定期間、「仮置場」や「現場保管」で安全に保管されます。

地上に除去土壌を保管する場合の例
(地下水位が高い場合など)



環境省「除染情報サイト」より作成

除染で取り除いた土壌などは、一時的な保管場所（仮置場又は現場保管）で保管・管理します。具体的には、除去土壌は水を通さない層（遮水シートなど）の上に容器（フレキシブルコンテナなど）に入れて置きます。

汚染されていない土壌を詰めた土のうなどを設置するなどの方法で、仮置場の敷地境界での空間線量率が、周辺と同水準になる程度まで遮へいを行います。

また、遮水シートなどで覆うことにより、除去土壌自体の飛散・流出を防ぎ、さらに雨水などの流入と地下水などの汚染を防ぎます。

さらに、定期的に放射線量の測定、地下水の放射性物質濃度の測定などを実施します。

公衆から遠ざける（距離を確保する）という観点から立ち入り禁止、作業者の被ばくを抑えるという観点から作業時間の短縮などについても考慮します。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日